

# 令和4年度 学校運営評価(自己評価)

令和5年3月実施

1.不十分である ~ 4.十分達成できている の4段階評価

大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)	R3	R4	評価と今後の課題
1 教育理念・目的・目標	1)法的整合性と独自性	自養成所の教育上の特色を示し、かつそれは法との整合性がある。	3.6	3.7	<p>今年度入学した学年から新カリキュラムに改正しており、改正時に教育理念、教育目的、教育目標を見直している。その為、改正前より四日市医師会という設置者の理念に基づいた当校の特色を示した教育理念になっている。</p> <p>また、改正前は明示していなかったディプロマポリシーも明示し、卒業時点において育成する看護師の目標とする資質を明確にしている。</p> <p>教育理念、教育目的、教育目標は今年度よりシラバスに載せるだけでなく、今年度より教務室のコピー機前に掲示し、常に教員が意識できるようにしており、教員から昨年度より意識できるようになったと評価されている。また各教室にも提示しており、学生がシラバスのみでなく、教育理念、教育目的、教育目標を意識し、理解できるようにしている。その為90%以上の学生は学校の教育理念・目標は理解していると返答している。</p> <p>今後は教員間でカンファレンスを行い、教育理念・教育目標の理解を深め、教育観を育成するよう努力していく。</p>
	2)教育理念・教育目的の意義と周知	教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に明示され、実際に指針となっている	3.3	3.6	
	3)看護専門職についての考え方	看護専門職としての専門性、自律性、倫理性、判断力、実践力についての考え方を明らかにしている	3.6	3.3	
	4)看護教育についての考え方	育成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容、教育方法、教育環境を整えようとしているのかについて述べている	3.2	3.4	
	5)学習・教育観と学生観	看護、看護学教育、学生観について、教師の教育活動の指針になるように明示され、実際に指針となっている	2.9	3.3	
	6)教育理念・教育目的の評価	卒業時点において育成する看護師等がどのような資質を有しているのかが明示され、その資質が、社会に対する看護の質を保障するのに妥当である	3.4	3.5	
2 教育課程目標	1)教育理念・教育目的との一貫性	教育理念・教育目的と教育目標が一貫している	3.4	3.6	<p>改正前の教育目標は「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」の教育の基本的考え方をそのまま教育目標として明示している。そのため、教育理念・教育目的との内容の一貫性は不足しており、当校の独自性もなかった。新カリキュラム改正後は、教育理念・教育目的から教育目標を考え教育目標を考ええた。</p> <p>その結果、昨年度より教員による評価点が上昇していると考え。また、教育目標は学年次目標を明確にしており、その学年で達成すべき目標を示すことができている。</p> <p>現在当校は教員経験が3年未満の教員が3人(30%)であり、今年度は講義と実習をこなすだけでも大変な状況にあった。今後は経験を積み、担当科目における教育課程目標を見直していく。</p>
	2)目標内容の側面と到達レベルの側面	教育目標は、設定した教育内容を網羅し、かつ最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとして示している	3.2	3.5	
	3)設定意図とその明確性、実現可能性	看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長発達を促すための側面から教育目標を設定している	3.3	3.4	
	4)教育目標の評価	教育目標において、目標内容と到達レベルが対応し、具体的で実現可能な目標として明示している	3.4	3.4	
	5)継続教育との関連	卒業後の継続教育の考え方を示した上で、看護基礎教育として、教育目標を設定している	3.2	3.3	

大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)	R3	R4	評価と今後の課題
3 教育課程経営	1)教育課程経営者の活動	教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育の評価の関連性を明確に持ち、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている	2.8	3.2	カリキュラム改正前は各科目の「概論」が1年次であったり、2年次であったりと統一されていない等の学修進捗の見直しが必要な科目があった。この科目に対しては、新カリキュラムより見直し、全て1年次に行くなどの修正を行っている。その為、1年次に概論の講義を終えると、その後の教授内容に広がりが出たと評価している教員もいる。 また、基礎看護学実習の単位を増やしたこと、横断科目を設定したことも社会の状況を踏まえた内容に改善できていると評価されている。 教育課程は、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の各分野の考えは作成し、シラバスに具体的な内容は明示している。また、新カリキュラムよりその科目ねらいや設定理由を明示している。 また、四日市医師会設立の学校として、三重県四日市市の特徴、四日市市の健康学的状況等の特徴を学び、生活者の環境、生活者としての人間の理解を深めるべきであると考え、新カリキュラムより【四日市】や【保健医療福祉論演習】等の科目を取り入れ、その理解ができる科目を立てをし、当校の特色を表すようにした。 今後は各担当教員間で教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動ができるよう話し合いをしていく。
	2)教育課程編成の考え方とその具体的な構成	教育課程は、看護学の内容、求める学修の到達および学生の成長発達について明確な考え方と根拠をもって編成している	2.9	3.4	
	3)教育内容の階層的関連性とその配分の考え方	基礎分野、専門基礎分野、専門分野についての考え方と各分野の具体的な内容をどのようなものとするかその考え方が明示している	3.2	3.4	
	4)科目・単元構成	科目構成、単元構成の考え方と根拠を明確にして構成され、その考え方は教育理念・目的、教育目標との整合性をもち、構成された科目は看護実践者を育成するのに妥当であり、かつ養成所の特色をあらわしている	3.0	3.2	
	5)教育計画	単位履修の方法とその制約が教師・学生の双方がわかるように明示し、その方法が学生の単位履修の支援となっている	3.3	3.6	教育計画は、入学時に配布するシラバス・便覧により単位履修の方法とその制約について明示し、単位履修の支援を行っている。 また、科目の配列は、単位履修と本校の期待する卒業生像に向け修得できる配列になっている。
		科目の配列は、単位履修と看護実践者になるために養成所が設定したその質を維持して修得できるような配列になっている	3.1	3.7	
	6)教育課程評価の体系	単位認定の基準(設定)および方法において、看護専門職に必要な学修を認めるものとして十分に根拠があり、また、妥当である	3.3	3.6	単位認定の基準は、筆記試験、レポート等で評価を行い、合格基準は明示している。大学、専門学校等で習得した単位は、シラバスの内容より合致性を確認のうえ既修単位認定している。 教育課程を評価する体系は学生評価、卒業生評価を行っているのみで、体系は整えていない。 また、その結果の活用における倫理的規定は明確にできていない。今後は定期的に教育課程評価の点検・見直しを行っていく。来年度の課題とする。
		他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている	3.6	3.7	
		教育課程を評価する体系が整っており、また、結果の活用における倫理的規定が明確になっている	2.4	2.8	
	7)教員の教育・研究活動の充実	担当科目や担当時間数の関連から、教員の専門性が活かされ、授業準備に関する時間が保障され教員の専門性を教授できる体制を整えている	2.4	2.7	担当科目は教員の専門性が活かされるよう配慮しているが、専門性の重複があり、できていない教員もいる。 教員は担当科目の教育活動以外の業務も多く、教育・研究活動の時間が十分に確保されているとは言いが、業務の見直しや効率化を図り、できるだけ時間を確保できるよう努めている。今年度は四日市看護医療大学の准教授と合同で研究を行い、来年度に発表する予定である。各教員の研究費として図書費や学会や研修参加費用、学会年会費等の財政支援は継続的に行っていく。
		教育課程の運営の実践者である教員が自ら成長できるための相互研鑽、自己研鑽のシステムを整えている	2.7	2.9	
		研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所にあるか	1.8	2.3	
		教員の研究活動は保障(時間的、財政的、環境的)されているか	2.3	2.2	

大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)	R3	R4	評価と今後の課題
3 教育課程経営	8)学生の看護実践体験の保障	臨地実習施設は、養成所の教育理念、教育目的、教育目標を理解し、学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている	2.8	3.0	<p>臨地実習施設とは、定期的の実習指導者会議を開催し、実習における当校の実習における考え方、方針、教員と指導者の役割、実習指導要綱の説明を行い、学習を支援して頂けるようにしている。実習後の指導者会議では、実習評価を行いその改善策も検討してる。</p> <p>しかし、昨年度と同様で、実習受け入れをして頂いている病院数は多く、その協働体制の差は大きい。今後も引き続き、その体制を整えるよう取り組む必要がある。</p> <p>実習時のインシデント・アクシデントについては、インシデント・アクシデントレポートを提出させ、事故原因を探り、対策をとるようにしている。昨年度まではその内容について教員全員で共有できていなかったが、今年度より内容を集計・評価し、教務会議で共有できるようにしている。</p>
		臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者と教員がそれぞれの役割を明確にし、協働体制を整えている	2.7	3.1	
		学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示し、学生への指導を計画的にしている	3.1	3.5	
		臨地実習における学生が関係する事故を把握、分析し、安全教育、安全対策を計画的にしている	2.8	3.2	
4 教授・学習・評価過程	3)授業内容間の関連と発展	1)授業内容と教育課程との一貫性	3.1	3.3	<p>授業内容は、当校の教育理念・教育目標との一貫性を意識して設定しており、その内容は看護学を構成する科目や単元、当該授業の意図にそった教育内容となっている。</p> <p>しかし、各科目ごとの授業内容での重複や教授漏れがないように、看護技術マトリクスや疾患マトリクスを作成してるが、十分活用できていなかった。そのため、今年度はさらに詳細な看護技術マトリクス・疾患マトリクスを作成し、教員間で検討し、その重複や教授漏れがないよう取り組んでいる。</p>
		2)看護学としての妥当性	3.4	3.4	
		当該授業の内容は、教育課程との関係において当該学生のための授業内容のまとめりとして考えているか	3.3	3.4	
		授業内容のまとめりづくりの考え方は、科目目標との整合性を踏まえて明確に述べているか	3.4	3.4	
		授業内容のまとめりは、看護学の教育内容として妥当性がある内容となっているか	3.4	3.2	
4 教授・学習・評価過程	4)授業の展開過程	当該授業内容と他の授業内容との関連において、重複や整合性、発展性などについて明確になっているか	3.0	3.0	
		履修形態(講義、演習、実験、実習)は、授業内容のまとめりづくりに応じた形態を選択しているか	3.3	3.2	
		授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践しているか	3.0	3.2	
		当該授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援しているか	3.0	3.2	
		学生に対し効果的な教育指導を行うにあたり、教員間でどのような協力体制で行っているか	2.6	2.7	<p>授業の履修形態は授業の内容に応じた形態を選択しており、その指導方法は、シラバスに明示し実践している。</p> <p>専任教員の授業ではアクティブラーニング、シミュレーション教育に積極的に取り組んでいる。しかし、学生の臨床判断能力を鍛えるには不十分である。今後更なる授業内容・方法の工夫を行っていく。</p> <p>教員間の協力体制としては、今年度も不十分であった。その点については担当教員が協力可能な教員に依頼する方法のみでなく、方法を検討し取り組んでいく。</p>

大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)	R3	R4	評価と今後の課題
4 教授・学習・評価過程	5) 学習への動機付けと支援	シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性をもって、学生の学習への動機付けと支援になっているか	3.1	3.1	シラバスは、入学時に提示しており、科目毎の学習目的、学習内容、課題を明示し、学生が理解でき、興味関心がもてるように工夫している。 学生からはシラバスの内容の理解、適切な時間割については95%以上が「とてもそう思う・そう思う」と評価している。
		シラバスは、授業内容がどのような意図で、どのような内容として設定されているかなど、学生が理解しやすいように、また、興味関心を持てるように、具体的に記述されている	3.2	3.3	
	6) 授業評価とフィードバック	評価と指導の表裏一体性を踏まえた評価計画が立案・実施され、評価結果は、実際に授業が改善されているか	2.7	2.8	評価方法は、授業では、レポートや筆記試験による評価、学生からの評価はポートフォリオシステムによるアンケート評価を行っている。 昨年度同様、ポートフォリオでのアンケート入力には、再三入力するよう声掛けを行っても、入力者数が少なく、客観的データにはなっていない。これに対しては、来年度より入力者数を増やす方法として、Google formsを使用し、終講試験が終了するたびに入力するようLINEで促すシステムにしていく。 授業評価から改善点を明確にすることは個人に任せており、教員間で共有はできていない。今後共有する方法を考え取り組んでいく。 単位認定のための評価は評価基準を便覧・シラバスにより明示しており公平性はある。また、単位認定に関わる実習評価は、教務会議で検討し、公平性をもたすようにしている。
		可能な限り、学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れ、目標の達成状況を明確に捉えているか	2.6	2.6	
		評価の方法について、特に単位認定のための評価については、学生に公表(認定基準等)し、公平性があるか	3.4	3.2	
	5 経営・管理過程	1) 設置者の意思・指針	養成所の設置、教育理念、教育目的、教育課程運営、教育評価、および養成所の管理運営に関する管理者の考え方を、設置者の意思との一貫性を持って明示し、かつ教職員は理解しているか	2.6	3.0
2) 組織体制		組織体制は養成所の教育理念・目的を達成するために意思決定のシステムや権限、役割機能が明確であり、かつ組織構成員の意思の反映や決定事項を周知できるように整えているか	2.7	2.7	
		組織の構成と教職員の任用、及び、教職員の資質の向上についての考え方と対策は、教育理念・目的を達成するために整合性を持っているか	2.4	2.5	
3) 財政基盤	養成所の財政基盤をどのように確保しようとしているかについて明確な考え方をもち、学習・教育の質の維持・向上につながるようになっているか	3.0	3.1		

大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)	R3	R4	評価と今後の課題
5 経営・管理過程	3) 財政基盤	教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解し、それぞれの観点から財政についての意見を経営・管理過程に反映できるようにしているか	2.4	2.6	養成所の財政基盤は、どのように確保していくかは、長期的に検討を行い対応している。 備品購入については、購入スケジュールを作成し、学習・教育の質が維持できるよう計画的に更新している。また、4年前より学校のICT化を進めており、コロナ禍におけるオンライン講義にもスムーズに対応することが出来ている。 施設設備については、演習室が1つしかなく、演習を行うスペースが少ない。しかし、それに対しては、スペースを増やすことには制限があるが、様々な場所を活用し、柔軟に対応していく。
	4) 施設設備の整備	学習・教育環境について、管理者としてどのような考え方をもって整備しようとしているかを示し、その考え方に基づいて整備計画を立案し、実施しているか	2.9	3.1	
		看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備し、また、医療・看護の発展や学生層の変化にあわせて、整備・改善できるようにしているか	3.0	2.9	
5 経営・管理過程	5) 学生生活の支援	学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に、かつ学生が活用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっているか	3.2	3.2	チューターによる学生生活の支援、専門のカウンセラーによる面談を行い、学生の学校生活が継続できるよう支援を行っている。国家試験対策は、年間スケジュールをもとに実施、就職・進学試験対策は担当教員が対応し成果を上げている。
	6) 養成所に関する情報提供	教育・学習活動に関する関係者への情報提供を行うことによって、その協力・支援を得ているか	3.2	3.1	学生の成績、単位修得状況は、学年末時点の成績状況を入学時の保証人・保護者へ通知している。 広報活動は、式典の新聞への掲載、高校訪問、進学ガイダンスイベントへの参加、学校ポスターの配布等で行っている。 今年度は、ホームページをリニューアルし、当校の魅力をアピールできる内容となっている。 また、現在はコロナ禍で高校3年生、社会人のみ対象のオープンキャンパスの参加を行っているが、来年度より、高校生全体、保護者、社会人と拡大し学校のアピールを行っていく。 また、来年度は中学生の職場体験の依頼があり、そのような依頼も積極的に受け入れ、学校アピールを行っていく。
		広報活動は、看護専門職を育成する機関として、その存在を十分にアピールし、かつ社会的説明責任を果たす内容と方法になっているか	3.1	3.3	
7) 自己点検・自己評価体制	自己点検・自己評価の意味と目的を理解し、実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確に持っているか	2.4	2.8	今年度より自己点検・自己評価を実施するため、学校評価に関する実施要綱を作成した。教員からは評価を定期的に行うことで自己の課題が明確になり、自己研鑽につながった、という意見が出ている。評価体制についての運用を進め、よりよい学校運営をおこなう。また、自己評価だけでなく、他者評価ができる体制も整えていく。	
	養成所の自己点検・評価体制を整え、運用し、その機能を養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックし、養成所の教育理念、目的、目標を維持・改善しているか	2.2	2.8		
6 入学	1) 入学者の選抜の考え方と教育理念、教育目的との一貫性	教育理念・教育目的との一貫性から入学者選抜についての考え方を述べている	3.2	3.3	令和2年度より入試委員会を発足し、委員会で前年度の入学者選抜方法の問題点を明確にし、選抜方法を検討している。 入学者選抜は、選抜基準を決め、教員による合否判定会議、運営委員会による合否判定会議により公平に行っている。
		入学時にどのような能力を重要視し、どのような選抜方法によって可能なものが検討されている	3.3	3.2	
	2) 選抜の公平性	入学者選抜は、準備、実施、採点、発表の過程において公平性が保たれている	3.7	3.9	

大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)	R3	R4	評価と今後の課題
6 入学		入学試験問題の漏洩や採点における不平等が起こらないよう管理上の工夫、徹底している	3.8	3.8	
	3) 選抜方法の妥当性	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証しているか	3.4	3.6	<p>現在、受験者数は減少傾向にあり、特に一般入試による入学者の確保が厳しい状況にあり、特別入試による合格者数を増加し、対応している。今後も入学者状況を分析し、妥当性のある選抜方法を選択していく。</p> <p>入学希望者開拓に対しては、昨年度より公募推薦入試枠を三重県北勢地区だけでなく、中勢地区、愛知県まで拡大し、募集活動を拡大している。また、オンラインによる入学相談会を開催しており、オープンキャンパスに参加できない社会人や、進学校等で悩んでいる学生の相談にのり、入学希望者の支援を行っている。</p> <p>来年度からは受験者数を増やすために、三重県下の看護専門学校の受験科目の集計を行い、受験しやすいような科目の変更を行う、指定校推薦や公募推薦枠を南勢まで拡大する予定である。</p>
		学生数は、演習や実習を行う上で適正である	3.0	3.4	
	4) 入学希望者開拓への取り組み	従来の募集範囲や方法を維持するだけでなく、入学希望者本人、保護者、地域の高等学校、さらに全国に向けてそれぞれのニーズにあった方法で募集活動を積極的に行っている	3.2	3.3	
募集要項の作成、ホームページの作成、受験生への説明会への参加など、受験生募集の方針・内容・方法について、組織的、計画的に検討している		3.6	3.4		
7 卒業・就業・進学	1) 進路選択状況と教育理念・教育目的との整合性	卒業生の到達状況、就職・進学状況を分析した結果は、教育理念・教育目標と整合性があるか	3.0	3.2	<p>昨年度までは卒業生の進学・就職後の状況は、実習病院、学校に訪問された病院からの情報を把握してのみであった。今年度からは、その情報把握のみでなく、ホームカミングデイを開催し、卒業生にアンケートをとり卒業生の状況の把握、教育評価を行うようにした。このホームカミングデイと卒業生アンケートは継続して行っていく。</p>
		卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理し、教育理念、教育目標、授業の展開に活用しているか	2.4	2.8	
	2) 進路選択状況と卒業後の活動状況の評価	卒業生の就職先での評価を把握し、問題を明確にし、教育を改善するために、就職先との情報交換や調査の実施などができる体制が整っているか	2.3	3.0	
		卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、それを計画的に行っているか	2.9	2.9	
8 地域社会／国際交流	1) 地域社会への貢献	社会との連携において、地域のニーズを把握し、看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っているか	2.4	2.6	<p>地域貢献に対しては、四日市市市民総ぐるみ総合防災訓練のボランティア活動程度しか行えていなかった。しかし、今年から地域活動として、学校周辺地区の清掃活動を開始した。この活動で地域住民から感謝の言葉を頂いたり、学生からの評価もよかった。この清掃活動は継続していくとともに、他にできることを自治会を中心に行っていく。令和4年度からは、地域で暮らす人の理解を深めるため、「四日市学」という科目で、フィールドワーク等を行い、地区の特徴から生活者を理解するという教育活動を行うようにしている。</p>
		養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段、養成所から地域社会へ情報を発信する手段を持っているか	2.4	2.5	
	2) 地域社会における資源の活用	地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れているか	2.8	2.9	
	3) 国際交流のための体制	国際的視野を広げるための授業科目を設定しているか	2.9	3.3	
		国際的視野を広げるための自己学習システムが整っているか	2.3	2.4	
		帰国学生の受け入れ体制があるか	2.2	2.7	
留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制があるか		1.8	2.3		